

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2372201067
法人名	株式会社 エイム
事業所名	グループホーム 若竹
訪問調査日	平成20年12月22日
評価確定日	平成21年1月14日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
**[取り組みの事実]**  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
**[取り組みを期待したい項目]**  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
**[取り組みを期待したい内容]**  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月14日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2372201067		
法人名	株式会社 エイム		
事業所名	グループホーム 若竹		
所在地	一宮市せんい三丁目9番25号 (電話) 0586-75-0560		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年12月22日	評価確定日	平成21年1月14日

【情報提供票より】(平成20年11月22日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	14年4月30日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	24 人	常勤 13人, 非常勤 11人, 常勤換算 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 1~2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000~48,000 円	その他の経費(月額)	20,800 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(家賃×3カ月) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	640 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(平成20年11月22日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	8名	要介護4	5名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.4 歳	最低	67 歳	最高	95 歳
協力医療機関名	野村医院				

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くに勤労福祉会館や市の温水プールがある繊維団地の一角にホームは位置している。3階建ての1~2階部分を使用している。知識や技術の勉強に力を入れており、全職員がレベルアップできる体制を持っている。一人ひとりの思いや過ごし方を大切に日課を定めていない。天候、体調、思い立った希望をできるだけ取り入れた支援を実施している。できることやしたいことに工夫をして支援をしている。家族や職員間のコミュニケーション力がホームの自慢である。現任のベテラン職員を通して若い職員を育てる取り組みを考えている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型としてホームの理念をどのように捉え考えるか職員皆で話し合った。災害時の備蓄品は準備されている。栄養バランスは専門家に献立表をチェックしてもらったり血液検査の結果を参考にしているなど積極的に取り組んでいた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を勉強会で管理者から説明があり、職員が積極的に取り組めるよう話し合いを持った。インターネットを活用したり、職員同士で相談したりと全職員で取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では熱中症やインフルエンザなどの勉強会、生活や運営状況の報告、評価の実施や結果報告、意見交換会、次回の議題提案と幅広く活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に意見箱を設置したり、話しやすい雰囲気づくりに努めている。毎月写真を添えて生活状況や金銭管理の報告をしているが状況により電話連絡をしたり、面会時に直接職員に意見や疑問について話をしてもらっている。相談内容により運営推進会議を通して説明、報告することもある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	商業地域の中の地元の人々と交流できる機会を大切に考えている。ホームで町内会の行事に参加できることは何かを見極め、民生委員に相談しながら連携を図っている。地域のボランティアや、小中学生の体験学習を受け入れている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着としての理念について職員みんなで話し合った。幾つかの案の中から、「やさしい介護の姿勢が大切、出来ることを活かせる介助」でまとめ独自の理念となっている。「手を出しすぎずやさしい気持ちで声かけ」「安心で落ち着いた居場所の提供を」の理念は地域で果たす役割を広く含んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には「介護の基本」を通して理念の説明をしている。毎日の申し送りや勉強会で具体的に理念について話し合っている。介護の基本や理念は職員の足が止まる目に付きやすい場所に掲示をしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市を支える商業地域の中で地元の人々と交流できる機会を大切に考えている。七夕、歌謡ショー、敬老会、資源ごみの分別収集等町内会の行事に参加している。民生委員への相談、読み聞かせ、大正琴、ギターなどのボランティア、小中学生の職場見学や体験学習を受け入れている。日常としては散歩や買い物時の挨拶を交流の入り口と捉えている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を勉強会で伝え職員が積極的に取り組めるよう話し合いを持った。インターネットを活用したり、職員同士で相談したりと職員全員で取り組んだ。前回の取り組みに加えて理念について介護の基本から地域の中で暮らし続けることへの理解を深めた。災害時の備蓄品や非常袋を準備したり、日々の栄養バランスは専門家のアドバイスを取り入れるなどの改善がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2~3カ月に1回開催している。参加メンバーは入居者、家族、民生委員、女性の会会長、職員で評価の結果や取り組み状況を報告している。また、熱中症、インフルエンザなど資料を基に勉強会を開き意見交換をしている。次回の議題を参加者から出してもらったりと参加型でサービスの向上に活かしている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の相談窓口はホームと近い位置にありいつでも相談や声かけられる。きずなの会の協力で権利擁護などの話がありサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月1回家族へ生活状況のお知らせや金銭管理を報告している。日常生活動作、健康状態、行動状況と細かく丁寧に写真を添えて郵送している。面会時に手渡しして直接口頭で伝えたり、電話で報告をすることもあり臨機応変に個々に合わせて報告をしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置しているが、直接話しを受けることで活用に至っていない。家族会はあるが交流の機会が少なく、意見や相談は直接職員に話しがあり日常業務の中で話し合い、解決している。運営推進会議を通して説明、報告をすることもあり運営に反映できる取り組みを行っている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は少なくなっており、入居者や家族の方と馴染みの関係が構築している。1階、2階と職員を固定しているが「介護の基本」を通して介護の心得や介護技術をもって入居者全員に対応できるよう努めている。新しい職員には担当職員の2人一組で指導しているが全職員で指導できる環境があり、入居者への影響に配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には現場で丁寧に直接指導をしている。外部研修は段階や内容により参加職員を管理者が業務の一環として交代に選んでいる。ホーム内で2カ月に1回勉強会を実施しており外部研修の発表を行っている。向上心を持つ大切さを評価する体制や休憩室、親睦会でリフレッシュできる機会を設けている。		
11	20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南東地区ケアマネの会や市の介護サービス事業者連合会に加入している。勉強会で同業者同士顔見知りになり交流を図っている。情報交換や相談をしながら相乗効果を挙げている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には家族と一緒に見学してもらっている。おやつを食べたりしてホーム内で時間を共に過ごしてもらうこともある。また、状況によりホームから面会に出かけることもある。ホームのことは家族から本人へ話をさせていただくようお願いをしている。いきなりの利用で混乱のないように工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は食事作りで野菜の切り方や味付けを教えてもらい献立が増えている。日常の掃除、テーブル拭き、おしぼりの巻き方を教えてもらっている。話のとき昔の様子や懐かしい思いを教えてもらうこともある。秋の遠足で博物館へ行ったとき3・8の市について詳しく話をしてもらった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は毎日の会話や表情の中から思いを感じ取るようにしている。入浴はリラックスできる時間の一つであり希望や思いが話しやすい場となっている。本人の思いと家族の思いが大きく違わないように日頃の様子を細かく報告している。また、本人、家族を交えて話し合う機会も大切にしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画はセンター方式を使用している。介護計画作成者は、アセスメント（基本情報に関する項目）（課題分析に関する項目）や職員の申し送り等を聞きながら介護計画を作成し、できないところを少しでもできるように目標を設定している。家族には訪問される時に説明を行い、遠い家族には郵送している。週間サービス計画表には日常の中での入居者毎の配慮する点を赤字で記載されている。介護計画表は入居者毎のファイルに綴じ職員が確認している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画の見直し期間は3ヵ月に1回行っている。入居者の状態（健康状態、行動状況）変化が現われた場合に申し送りや勉強会などで情報共有している。入居者の変化に対して計画作成者はフロアごとに通達ノートを作成し、全職員が確認後押し印をして周知している。対応できない変化が生じた場合は家族や提携医（24時間対応）職員と相談しながら新たな計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院介助はホームの車でやっているが、ホームの車が無い時には介護タクシーを利用している。訪問美容は1~2ヵ月に1回入居者の様子を見ながらホームから依頼している。入居者が入院した時は職員が面会に行き、できるだけ早く退院できるように心がけている。入居者が病院から電話されたこともある。外泊をされる入居者もいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に協力医療機関を説明し、入居者がかかりつけ医か協力医を選んでいる。往診は医師によって4週間に1回、2週間に1回がある。受診の場合は協力医は職員が同行し、かかりつけ医は家族が同行する。その時は職員が家族に日常の事や状態を手紙に書いて手渡す。家族から受診の報告を得るが、分からない場合は電話で尋ねたり職員が同行する。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>早期から重度化した場合の対応に係る指針の説明を行い、都度医師や家族と話し合いを行っている。緊急対応をした時には、記録で情報を共有すると共に管理者が職員一人ひとりに実態を伝えている。管理者は職員に記録の重要性について指導しており、特に夜勤時は各フロア職員1名になることから、「必ず記録に残すこと」と話している。入居者の水分が取れない、食事が取れない、医療が必要な緊急な場合は、医師、家族、職員で話し合い入院するなど方針を共有している。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居時に個人情報について入居者、家族から「個人情報使用同意書」の同意を取っている。記録は入居者の見えないように配慮されている。管理者から職員にコミュニケーションをとる中で「触れてほしくないことには触れないように」と話している。入居者の声かけにも大きい声で話さず、トイレ誘導にも入居者の耳もとで話すなど気配りがある。職員とは雇用契約時に秘密保持を交わしている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>買い物、喫茶店、散歩など外出の希望や趣味の将棋、カラオケを楽しめる支援をしている。強制するのではなく意欲がでる工夫を職員みんなが考えてアイデアを出し合っている。歩くことが必要となった方へ成果の確認ができるようカレンダーにひと工夫している。居間ではおしぼり巻き、おしゃべり、歩行と本人の希望に添った支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は担当職員が入居者の意見を聞きながら立てている。メインは1Fと2F一緒に調理され1日交替で行われている。食材の買い出し、下ごしらえ(もやしのひげ取り、ジャガイモの皮むき)味見、後片付け等を入居者のできる力を活かせるように努めている。献立で嫌いなものは同じ材料で調理に工夫をしている。誕生会は、目先を変えて折り詰めに入れるなどの工夫もしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回であるが、本人の希望があれば対応している。介護度の高い入居者の場合は職員を2~3人体制にしている。拒否される場合は、気を紛らわすように話に集中させたり、安心感を持たせるためにお風呂の中にぬいぐるみを入れた時もある。湯船で歌を歌ったり、足を動かしたり、季節ごとにゆず、みかん、菖蒲などを入れるなど工夫しながら入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は掃除、食事の下準備、配膳などできる範囲で職員と一緒にいき、おしぼりたたみや後片付けなどは入居者が自発的に行なっている。レクリエーション担当者が月1回の予定で季節に合わせての楽しみごとを企画しており、入居者も楽しみにしている。地域行事の歌謡ショー、博物館見学、七夕などにも参加するなど気晴らしの支援に取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は入居者の体調や意向に合わせて、近くの公園まで散歩に出かけ自然の移り変わりを五感で感じる工夫を行っている。歩行が困難な方は車椅子を利用している。声をかけても拒否される入居者は玄関先で日光浴をするなど気分転換ができるように配慮している。外出した時には喫茶店に寄ることで気分転換を味わっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵をかけない暮らしの大切さは全職員が周知している。玄関前は公道で外部からの侵入防止のためチャイム付きの施錠が付いている。日中は入居者の状態が不安定や落ち着きがない場合以外は施錠をしていない。独りで外出した場合に早急に対応できるよう入居者の服装を職員は毎朝確認しており、対応については休憩室に掲示されている。入居者が外出しようとした時は、止めるのではなく職員も付き添っている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中、夜間を設定して年1回避難訓練を実施している。日頃から職員は入居者に「地震が来たらどうする?」とシュミレーション的に避難する時にはどうするか話している。職員がホームまでの到着時間を把握している。運営推進会議で協力を働きかけている。備蓄には水、缶詰、おむつ等が用意され、リュックには、1日の薬、保険証の写し、懐中電灯、携帯など準備されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士に相談しながら献立を立てている。献立は旬のものを使用するように管理者、チーフ、職員に聞きながら見直している。体重は月1回測定して大きな変動がないかチェックする。食事はバランス良く魚、肉と同じ物が重ならないように配慮している。台所には入居者ごとにとろみ多め、ミキサー食、刻み食、普通食の配膳や、注意事項が誰でも見てもわかるように掲示してある。健康診断は年1回行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は季節の花が植えてあり、玄関口にはソファがあり靴の脱ぎはきや休んだりできるように工夫されている。広々とした居間は椅子やソファや畳の間がありゆったりとくつろげる。暦の日付が1日ずつ大きい文字で書かれ遠くからでもよく見える。廊下は手すりが付いて角には危険防止でタオルを巻いている。エレベーターが無いため階段専用昇降機があり、2階の入居者は病院、散歩などに行く時は安心して利用している。壁面にはクリスマスの飾りつけを職員と入居者で作成した作品が掲示されていた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの仏壇、家族や愛犬の写真、手づくり作品、人形、時計、鉢植えなどが持ち込まれている。床は、フローリングでベッドや絨毯を敷き、その上に布団を設置するなど入居者の意見を尊重している。クローゼットも付いている。入居者の必要に応じて手袋、携帯酸素、体位変換クッション、ポータブルトイレ、加湿器、車いすなどホームから貸与するなど居心地良く過ごせるように柔軟な支援を行っている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。